

二本立て上演

ヤルタ会談 / 隣にいても一人 - 広島編 - (青年団)

作・演出：平田オリザ

9月13日(土) 17:00・14日(日) 17:00/22:00

スタジオ 料金：大人=2,500円 中高生=1,000円 小学生=無料

『ヤルタ会談』

第二次大戦末期にソ連の保養地・ヤルタに集結した英・米・ソの3人の首脳たち。チャーチル、ルーズベルト、スターリンの3人が、戦後のヨーロッパでの主導権や、イスラエルの設立、そして日本との長引く戦いをめぐって、それぞれの思惑をぶつけたり、お茶をにごしたり、お菓子を食べて続けたりしながら、具体的なことは何も決まらないまま会談は進んでいきます。世界史上の重大秘密会談を描いたブラックユーモア満載のコメディです。

この作品は、当初は戯曲ではなく、柳家花緑師匠のために新作落語台本として書き下ろされました。この落語は、2002年10月、上野の鈴木演芸場で高座にかけられました。私が観た回では、客席から「話が難しすぎるよ!」とヤジが飛んでいて、私はとても申し訳ない気持ちになったものでした。あとで花緑さんに聞いたら、落語でヤジが飛ぶというのは、あまり聞いたことがないそうで、これはこれで、すごいことだと思った次第です。演劇版は、落語台本から三割ほどを書き変えたり書き足したりして、現在の形に至っています。(平田オリザ)

TALK 14日(日) 17:00の回上演後に演出家によるアフタートークがあります



撮影：青木 司

『隣にいても一人 - 広島編 -』

朝目覚めると何故か夫婦になっていた昇平とすみえ。離婚の危機にある彼らそれぞれの兄と姉。二組のカップルを通して、夫婦のあり方を淡々と綴っていく平田オリザ流不条理劇。

この作品は、日本を代表する劇作家・演出家である平田オリザと山小屋シアターが連携し「繰り返し上演できる高品質な作品を、低予算で地域から創出する」という目的のもと、2007年に広島でオーディションを行い、制作・初演された作品です。平田と広島出身の青年団俳優が地元で長期滞在し上演、その後2008年1月に他地域で制作したバージョンを一堂に会して行った東京公演*にまで至ったプロセスは、大きな注目を集めました。今年度は、青森編が盛岡で、関西編が帯広でといったように、各地の相互交流が始まっています。

このように、大きな予算をかけ一度限りの上演で終わる作品ではなく、他地域での上演や再演を重ねられる高品質な作品を生み出したことで、地域発信演劇のこれからの大きな可能性を提示しました。*広島編の他、三重、青森、熊本、帯広、盛岡、関西、英語版リーディング、同一作品8バージョンによる上演。

出演：『ヤルタ会談』松田弘子 高橋 縁 島田曜蔵 『隣にいても一人 - 広島編 -』河村竜也 坂田光平* 田原礼子 池田あい*(*=オーディション合格者)
舞台美術：杉山 至 照明：岩城 保 装置：濱崎賢二 制作：佐藤 誠 林有布子

■青年団とは

劇作家・演出家の平田オリザを中心に1983年に結成。平田オリザが提唱した「現代口語演劇理論」を通じて、新しい演劇様式を追求。これにより、90年代以降のわが国の演劇シーンに少なからぬ影響をあたえ、演劇界以外からも強い関心を集める。また、2002年度からは、所属する劇作家・俳優などがユニットを形成し、そこで独自の公演を行う企画として、「青年団リンク」を立ち上げ、複数の演出家、劇作家、多数の俳優を有し、多彩な演目を観客に提供するという日本では珍しい「シアターカンパニー」を目指している。近年は特に、その活動を海外に広げ、毎年のように海外ツアーを行っている。

